

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900250		
法人名	有限会社 環境設備		
事業所名	グループホームプランタンⅠ		
所在地	旭川市東旭川町上兵村464-1		
自己評価作成日	平成23年1月5日	評価結果市町村受理日	平成24年3月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigochoo-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172900250&SCD=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

良い自然環境と広大な敷地に恵まれています。敷地内にはデイサービス、有料老人ホームが併設され利用者さんとの交流も行われています。近郊からの利用者も多く、昔ながらの友人との交流もでき、安心して過ごせます。施術サービスや歌会に参加する事で、健康で楽しみを持てる生活を送れる様に心がけています。利用者が出来る事は職員の見守りなどで過度な介護を避けて、利用者の尊厳を守っています。管理者と職員の関係も良好で、暖かい雰囲気があります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成24年1月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営母体のプランタングループが「人間尊重、福祉の向上及び地域連携」を使命とし、平成15年9月より3ユニットのグループホーム「プランタンⅠ」として活動しています。広い敷地を活用し、有料老人ホームやデイサービスなどを併設しており、そのスケールメリットを行事や楽しみごと、入浴などで活かしています。また、スペースにゆとりのあるホーム内は、利用者が団欒や活動しやすいよう、それぞれのユニットに合わせた工夫をしています。看取りの指針を作成しており、月2回の訪問診療と希望により、かかりつけ医への支援も行い、利用者の健康管理に努め、家族の安心感を得ています。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちは、入居者の権利を尊重し住み慣れた地域で安心した生活ができるように支援します」との理念を職員全員が理解し、実践に取り組んでいます。	「私たちは入居者の権利を尊重し、住み慣れた地域で安心した生活ができるよう支援します」という理念に沿って、利用者の思いを大切に実践に努めています。日常的には利用者の希望を受け入れ、その方の暮らし方を尊重する支援をしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しています。今年度は敬老会、地域の農業まつり等に参加しました。また、地域の医療機関の往診や買い物は地域の商店を利用しています。	近隣の商業施設の利用をはじめ、敬老会等の町内会の行事や、地域の農業祭りなどには積極的に参加しています。また、小学校の音楽部の演奏や、ボランティアの歌や踊りを見たりするなど、利用者の楽しみと励みにもなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催の寸劇を用いた「認知症の理解と、地域で支えよう」の地域住民との交流会には積極的に参加し、運営推進会議に於いても報告し、活かしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、近況報告や要望等を聞いたり、災害時の協力体制についても相談しています。地域の多くの方に参加を呼び掛けています。	地域包括支援センター職員や医療関係者、商店主、運営者側などの参加で、2ヵ月に1回行われています。会議では、利用者の生活の様子など、近況報告・行事報告が行われ、意見、質問を聞き入れています。	家族が運営推進会議に関心を持って頂けるよう、会議録や資料を各家族に送付するなどの取り組みを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護高齢課や地域包括支援センターには普段から相談に乗って頂いたり、すぐに連絡出来る関係を築いています。	地域包括支援センターや行政とは、日頃より協力関係の円滑化に努めています。また、電話などで情報交換や助言を頂いています。市民委員会の方々等の施設見学を受け入れたり、社会福祉協議会などとも連携しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設定し、定期的に事例検討を行っています。	理念に「権利の尊重」を掲げており、身体拘束廃止委員会を設置し、定期的に事例検討も行うなど、職員は身体拘束の内容と弊害を理解しています。また、契約書に「やむを得ない身体拘束」に関して明示しており、利用開始時に説明しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者虐待防止を理解し、利用者が尊厳を持って生活して頂ける様に取り組んでいます。研修も行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市や他事業所、関連施設から連絡された研修会、勉強会には積極的に参加し、今後に向けその都度検討しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約に関しては十分な時間を取り説明する事で理解を得ています。トラブル等は発生していません。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には利用者、家族にも参加して頂き、意見、不満、苦情を自由に表せる機会を設けています。また、意見箱も設けてあります。利用者には定期的に一人ひとりに、困っている事、生活に対する意向を聞き、迅速に対応が出来る様に務めています。	玄関に意見箱を設置したり、家族の来訪時などに意見や要望、苦情を汲み取るようにしています。家族から出された要望は、介護日誌、もしくは連絡ノートに記録し、職員間で話し合っています。また、昨年には法人全事業所の利用者家族にアンケートを実施し、それらを運営に反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を聞くためのミーティングを月1回行い、自由に意見を出し合い、今後の就業に向け役立っています。管理者は職員と何でも相談しやすい関係を築いています。	職員会議やフロアミーティングなどで随時、意見交換をしています。離職者が少なく、管理者は働きやすい就労環境に配慮しています。職員が運営推進会議にも参加できたり、自己評価は全職員が参加して行い、それらの不明点などの質問に管理者は丁寧に指導するなど、職員の意識統一を図っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者はシフトを作成する際、職員の状況を把握し働きやすい環境を築いています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修はその職員のレベルに合った研修を受講してもらい、他職員に対し勉強会を開き、スキルアップを目指しています。事業所内でも活発に研修が行われています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の会議にはよく参加し、他事業所との交流を深めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始前から、利用者との面談時間を設け、本人が不安に思っている事、本人の意向を聞き、安心して利用して頂けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用開始前から、利用者は勿論、家族との面談時間を十分に持ち、家族が困っている事、不安に思っている事、意向を聞き入れ良い関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前に利用者、家族の面談の内容から、利用者、家族にとって必要なサービスが選択出来るように支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者からの昔の話を聞いたり、知恵を教わったり、共に支えあう関係を築き生活しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた事や定期的におたよりにて生活の様子を知らせています。また、利用者が家族と電話で話したり、家族の協力と理解を深めながら、利用者と家族の絆を大切にしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用が長くなると難しくなっていますが、本人の意向を聞き入れながら、昔から行っていた美容室や商店などに行ける様に支援しています。また、以前利用していたデイサービスの顔なじみに方が遊びに来てくれます。	家族からの情報や利用者の会話から、利用者本人の希望や意向を把握するよう努めています。また、利用者の要望する場所に職員も同行するなどの支援をしています。利用以前の知り合いの来訪など、地域でこれまで培ってきた人間関係を大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が介入しながら、トランプやカラオケ等を楽しんでいます。利用者同士がトラブルにならないように配慮も行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院により退去となるケースが多くあります。その場合なども「また、いつでも相談にのります」と声を掛けたり、支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのその時の思い、訴えがすぐに把握出来る様に介護記録に赤字で記録しています。必要に応じて家族に相談したり、会議を開催したいと思っています。	利用者との日々の関わりを通して、その人らしく暮らせるよう、タイムリーな思いや意向の把握に努めています。また、記録の仕方を工夫し、職員全員が共有し、利用者本位の暮らし方を支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしを利用者や家族から聞き取っています。利用開始時は他時事業所から情報を得る事もあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの状態を把握して、その方の希望に添う様、押しつけにならない様に、それぞれの生活リズムを尊重しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の意向を尊重し、安心して穏やかで充実した生活が送れる様に、介護サービス計画を作成しています。	理念でもある「住み慣れた地域で安心した生活ができるよう」、利用者一人ひとりの希望を引き出すよう心がけています。また、カンファレンスでは、家族の意向や医師の意見も参考にし、職員全員で検討しながら、介護計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の出来事は介護記録にありのまま詳しく記録しています。それにより経過や問題点を把握し、介護計画の見直しに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の希望に応じて、かかりつけ医への通院介助、買い物の付き添い、訪問販売による買い物など柔軟な対応が行われています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民への認知症の理解を求めながら、安全に楽しく生活が出来る様に支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が信頼しているかかりつけ医に安心して受診出来る様に支援しています。月2回の提携医の訪問診療も行っています。	利用者及び家族の希望を尊重し、かかりつけ医への受診を支援しています。また、協力医療機関による月2回の訪問診療や受診支援をしています。医療機関・家族・ホームの信頼関係が構築されています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師による定期的な訪問により、利用者の毎日の健康管理、変化などを報告、相談して適切なアドバイスを受けています。職員全員が利用者の健康状態を把握し、介護出来る体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際し、主治医、家族と相談しながら、一日も早く退院出来、安心して生活が出来る様に支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にも利用者、家族の意向を聞き、重度化した時に事業所で出来る事、出来ない事を理解して頂いています。利用者の状況を把握しながら、医療機関、家族、職員との間で話し合い、方針を決めています。看取り指針を作成しています。	利用開始時に利用者、家族の希望により、重度化した場合や終末期の利用者を支えるための方針を示しています。また、ホームができるケアについて家族へ説明しており、その都度、家族等と話し合いながら情報を共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による普通救命講習を受講しています。またマニュアルを作成し対応を行っています。急変時には協力医が24時間対応してくれます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導により避難訓練を年に2回以上行い、運営推進会議においても地域の方々の理解を得ています。また、緊急連絡網を作成し、近所の職員家族にも協力を得られる体制を築いています。	避難訓練は日中と夜間を想定し、年2回消防署の協力を頂き、利用者の状態や3階建て建物の構造を踏まえた、避難誘導訓練を行っています。消防署から対応方法の助言などを頂き、計画内容の見直しもを行っています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりが何を訴えたいのか、いち早く理解し、プライバシーや人格を尊重しながら言葉かけや対応を行っています。	利用者の権利を尊重し大切にしており、普段からの言葉かけにも十分配慮して、利用者一人ひとりの思いを知るように努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の中には、自分の思いを言葉に出来ない方もいますが声がけにより、気長に接しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合により押しつけにならない様に、一人ひとりの希望を聞き入れ、その人らしい毎日を過ごせる様に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合ったお気に入りの服を自分で選び着用したり、希望に応じて訪問理美容を利用しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に家庭的雰囲気の中で食事を楽しんでいます。誕生日にはその利用者のリクエストメニューでお祝いしています。食事の準備、片付けを進んで手伝ってくれる方もいます。	各ユニットで、テーブルなどの配置を工夫し、利用者のケアをしながら、会話を楽しみ職員も一緒に食事をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門的なカロリー計算は行われていませんが、系列の食事部会により栄養バランスを考慮し献立が立てられています。食事摂取量、水分摂取量の把握を行い、少ない時には促しを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがい、歯磨き、義歯の清掃は利用者の状況に応じて支援しています。必要時には歯科往診対応も行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を把握し、声がけ、定期誘導を行い、失禁を少なくする取り組みを行っています。自立されている利用者には自分で排泄表に記入してもらい回数を確認を行っています。	できる限り自立排泄できるよう、職員は一人ひとりの排泄パターンや生活リズムを把握し、各居室にあるトイレでの排泄を促がしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の摂取量、排便状態の把握を行っています。服用している便秘薬を理解し、必要に応じては医療機関の指示を仰いでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入浴は週2回の対応ですが、利用者の希望に応じる体制は整っています。各居室にはシャワー室が設けられおり、失禁時も速やかに対応出来ます。	併設のデイサービスの大浴場を活用するなど、利用者のその時々要望を大切にしています。入浴が楽しめるよう職員は細心の注意を払い、利用者とのコミュニケーションを積極的に取るようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間後も居室ではテレビを観たりするのは自由です。自分の使い慣れた寝具を利用し、それぞれが満足し休息、睡眠が出来る様に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院から処方された薬はきちんと服用する様に徹底しています。職員は薬の内容を理解し、またいつでも確認出来る様になっています。服薬マニュアルを作成しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的にカラオケ、トランプ、パズル等で楽しめる様になっています。毎日の掃除を張り切って手伝ってくれる利用者もいます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	通院、散歩、買い物、喫茶店等、利用者の希望を聞きながら外出支援を行っています。今年度は利用者の希望によりみんなで旭山動物園に行ってきました。	近所の公園への散歩や喫茶店の利用、車での大型スーパーへの買い物など、利用者の希望に沿った外出支援を行っています。昨年は全員で旭山動物園へ行くなど、全体の外出行事もを行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理出来る利用者は、家族の了解を得て、訪問販売でお菓子等を買い物をして楽しんでいきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に自分の電話を持っている利用者もありますが、他の利用者は事業所の電話を使用してもらっています。手紙の代筆も希望があれば行います。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広く、明るく利用者にとって快適に過ごせる様に工夫されています。廊下では歩行運動ができ、随所にはソファがあり、いつでも腰を落ち着ける事が出来る憩いの場所となっています。	リビングは、利用者と職員の全員がゆったりと過ごせるスペースがあります。各ユニットに合ったテーブル等が置かれ、利用者がゲームや団楽しやすいよう工夫しています。幅広い廊下には、ゆったりとした椅子やソファが配置され、利用者同士や職員との関係性を深める場となっています。また、廊下の窓際などには、利用者と職員が育てている花々が潤いをもたらしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室（食堂）は常に利用者の団楽の場所となっています。自由に居室で過ごしたり、談話室でトランプ等で楽しんでいます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は23畳と大変広く、トイレ、シャワー室が設置されています。使い慣れた家具等を持ち込み、ブライバシーも尊重されています。家族の宿泊も可能で、遠方の家族からは親と一緒に過ごす事が出来たと喜ばれています。	一人ひとりの生活スタイルや広いスペースに合わせて、馴染みの物や電化製品が自由に持ち込まれています。また、利用者手作りの作品や写真などを思い思いに飾り、安心した生活が送れるような居室作りを行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の家具の配置、トイレの手すり等、利用者の希望を聞き入れ、一人ひとりの状況に合った環境作りを工夫しています。		